

## 第3部 資料編

**広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式**  
**HIROSHIMA PEACE MEMORIAL CEREMONY**

令和元年(2019年)8月6日

August 6, 2019

**広 島 市**

The City of Hiroshima

## 式次第

		Program
開 式	8 : 00	<b>Opening</b>
原爆死没者名簿奉納 広島市長 遺族代表	8 : 00	<b>Dedication of the Register of the Names of the Fallen Atomic Bomb Victims</b> Mayor of Hiroshima Representatives of the bereaved families
式 辞 広島市議会議長	8 : 03	<b>Address</b> Chairperson of the Hiroshima City Council
献 花 広島市長 広島市議会議長 遺族代表・こども代表 被爆者代表 来 賓	8 : 08	<b>Dedication of Flowers</b> Mayor of Hiroshima Chairperson of the Hiroshima City Council Representatives of the bereaved families and children Representatives of the atomic bomb survivors Distinguished guests
黙とう・平和の鐘	8 : 15	<b>Silent Prayer and Peace Bell</b>
平和宣言 広島市長	8 : 16	<b>Peace Declaration</b> Mayor of Hiroshima
放 鳩		<b>Release of Doves</b>
平和への誓い こども代表	8 : 24	<b>Commitment to Peace</b> Children's representatives
あいさつ 内閣総理大臣 広島県知事 国際連合事務総長	8 : 29	<b>Addresses</b> Prime Minister of Japan Governor of Hiroshima Secretary General of the United Nations
ひろしま平和の歌（合唱）	8 : 46	<b>Hiroshima Peace Song (chorus)</b>
閉 式	8 : 50	<b>Closing</b>

# 平和宣言

今世界では自国第一主義が台頭し、国家間の排他的、対立的な動きが緊張関係を高め、核兵器廃絶への動きも停滞しています。このような世界情勢を、皆さんはどう受け止めますか。二度の世界大戦を経験した私たちの先輩が、決して戦争を起こさない理想の世界を目指し、国際的な協調体制の構築を誓ったことを、私たちは今一度思い出し、人類の存続に向け、理想の世界を目指す必要があるのではないのでしょうか。

特に、次代を担う戦争を知らない若い人にこのことを訴えたい。そして、そのためにも1945年8月6日を体験した被爆者の声を聴いてほしいのです。

当時5歳だった女性は、こんな歌を詠んでいます。

「おかつぱの頭<sup>づ</sup>から流るる血しぶきに 妹抱<sup>いだ</sup>きて母は阿修羅<sup>あしゅら</sup>に」

また、「男女の区別さえ出来ない人々が、衣類は焼けただれて裸同然。髪の毛も無く、目玉は飛び出て、唇も耳も引きちぎられたような人、顔面の皮膚も垂れ下がり、全身、血まみれの人、人。」という惨状を18歳で体験した男性は、「絶対にあのようなことを後世の人たちに体験させてはならない。私たちのこの苦痛は、もう私たちだけでよい。」と訴えています。

生き延びたものの心身に深刻な傷を負い続ける被爆者のこうした訴えが皆さんに届いていますか。

「一人の人間の力は小さく弱くても、一人一人が平和を望むことで、戦争を起こそうとする力を食い止めることができると信じています。」という当時15歳だった女性の信条を単なる願いに終わらせてよいのでしょうか。

世界に目を向けると、一人の力は小さくても、多くの人々の力が結集すれば願いが実現するという事例がたくさんあります。インドの独立は、その事例の一つであり、独立に貢献したガンジーは辛く厳しい体験を経て、こんな言葉を残しています。

「不寛容はそれ自体が暴力の一形態であり、真の民主的精神の成長を妨げるものです。」

現状に背を向けることなく、平和で持続可能な世界を実現していくためには、私たち一人一人が立場や主張の違いを互いに乗り越え、理想を目指し共に努力するという「寛容」の心を持たなければなりません。

そのためには、未来を担う若い人たちが、原爆や戦争を単なる過去の出来事と捉えず、また、被爆者や平和な世界を目指す人たちの声や努力を自らのものとして、たゆむことなく前進していくことが重要となります。

そして、世界中の為政者は、市民社会が目指す理想に向けて、共に前進しなければなりません。そのためにも被爆地を訪れ、被爆者の声を聴き、平和記念資料館、追悼平和祈念館で犠牲者や遺族一人一人の人生に向き合っていたいただきたい。

また、かつて核競争が激化し緊張状態が高まった際に、米ソの両核大国の間で「理性」の発露と対話によって、核軍縮に舵を切った<sup>かじ</sup>勇気ある先輩がいたということを思い起こしていただきたい。

今、広島市は、約7,800の平和首長会議の加盟都市と一緒に、広く市民社会に「ヒロシマの心」を共有してもらうことにより、核廃絶に向かう為政者の行動を後押しする環境づくりに力を入れています。世界中の為政者には、核不拡散条約第6条に定められている核軍縮の誠実交渉義務を果たすとともに、核兵器のない世界への一里塚となる核兵器禁止条約の発効を求める市民社会の思いに応えていただきたい。

こうした中、日本政府には唯一の戦争被爆国として、核兵器禁止条約への署名・批准を求める被爆者の思いをしっかりと受け止めていただきたい。その上で、日本国憲法の平和主義を体現するためにも、核兵器のない世界の実現に更に一步踏み込んでリーダーシップを発揮していただきたい。また、平均年齢が82歳を超えた被爆者を始め、心身に悪影響を及ぼす放射線により生活面で様々な苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

本日、被爆74周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和元年（2019年）8月6日

広島市長 松 井 一 實

## 平和への誓い

私たちは、広島町が大好きです。  
ゆったりと流れる川、美しい自然、  
「おかえり。」と声をかけてくれる地域の人、  
どんなときでも前を向いて生きる人々。  
広島には、私たちの大切なものがあふれています。

昭和20年（1945年）8月6日。  
あの日から、血で染まった川、がれきの山、皮膚がはがれた人、たくさんの亡骸、  
見たくなくても目に飛び込んでくる、地獄のような光景が広がったのです。  
大好きな町の「悲惨な過去」です。  
被爆者は語ります。「戦争は忘れることのできない特別なもの」だと。

私たちは、大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、  
次の世代や世界中の人たちに伝え続けたい。  
「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のまま終わらせないために。  
二度と戦争をおこさない未来にするために。

国や文化や歴史、  
違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を思う気持ちは同じです。  
みんなの「大切」を守りたい。

「ありがとう。」や「ごめんね。」の言葉で認め合い許し合うこと、  
寄り添い、助け合うこと、  
相手を知り、違いを理解しようと努力すること。  
自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。

大好きな広島に学ぶ私たちは、  
互いに思いを伝え合い、相手の立場に立って考えます。  
意志をもって学び続けます。  
被爆者の思いに、私たちの思いを重ねて、平和への思いを世界につなげます。

令和元年（2019年）8月6日

こども代表

広島市立落合小学校 6年

かねだ  
金田

しゅうか  
秋佳

広島市立矢野小学校 6年

いしばし  
石橋

ただひろ  
忠大

## Commitment to Peace

August 6, 2019

We, the children of Hiroshima, love our city.  
Her slow-running rivers and natural beauty,  
The voices of the community, welcoming us back home from school,  
Citizens that are ever resilient and hopeful.  
Hiroshima is full of all these precious things and more.

August 6, 1945.

On that day, and in the days to come, hellish sights so horrific they could not be unseen unfolded:  
The rivers run red with blood, the mountains of debris, the people stripped of their skin, piles of corpses.  
This is the harrowing past of our beloved city.  
“War is a very peculiar thing; it is impossible to forget.” These are the words of the *hibakusha*.

We carry the strong voices of the souls of the *hibakusha* who were all robbed of something irreplaceable,  
And we will relay these voices to the next generation and to the world at large.  
To ensure our harrowed past will not end as just our harrowed past.  
To ensure a future which will never again start wars.

Our countries, our cultures, our histories;  
Though our differences are many, one thing remains the same: the way we feel about things which are precious,  
people who are precious to us.  
We want to protect these things, these people who are precious.

Recognizing and forgiving one another with phrases like “thank you” and “I’m sorry,”  
Supporting and helping one another,  
Learning about one another and making the effort to understand our differences:  
These are things that even we children can do, things which will bring peace to our communities.

As children learning in our beloved Hiroshima,  
We shall be considerate of one another and openly share our feelings.  
We shall continue to learn of our own volition.  
With our hearts and the hearts of the *hibakusha* as one, we shall bring the ideals of peace to the world.

Children’s Representatives:

Shuka Kaneda (6<sup>th</sup> grade, Hiroshima City Ochiai Elementary School)

Tadahiro Ishibashi (6<sup>th</sup> grade, Hiroshima City Yano Elementary School)

令和元年 8 月 9 日  
August 9, 2019

# 被爆 74 周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

## The 74th Nagasaki Peace Ceremony



式次第		Program
被爆者合唱	1 0 : 4 0	Chorus by A-bomb Survivors
開 式	1 0 : 4 5	Commencement
原爆死没者名奉安	1 0 : 4 6	Laying to rest of the list of victims who died during the past year
式 辞	1 0 : 4 8	Opening Address
献 水	1 0 : 5 2	Water offering
献 花	1 0 : 5 4	Flower offering
黙 と う	1 1 : 0 2	Silent prayer
長崎平和宣言	1 1 : 0 3	Nagasaki Peace Declaration
平和への誓い	1 1 : 1 2	Pledge for Peace
児 童 合 唱	1 1 : 1 9	Children's chorus
来 賓 挨 拶	1 1 : 2 4	Addresses
合唱 千羽鶴	1 1 : 4 0	Chorus "A Thousand Paper Cranes"
閉 式	1 1 : 4 5	Closing words



### 目 次

会場案内図・被爆者合唱……………	1 ページ	平和への誓い……………	9 ～10 ページ
司会者名……………	2	児 童 合 唱……………	11
献水の採水場所……………	2	千羽鶴（歌）……………	12
原爆死没者名簿登載者数……………	2	長崎市民平和憲章……………	13 ～ 14
式 辞……………	3 ～ 4	長崎平和宣言<ことばの解説>…	15 ～ 18
長崎平和宣言……………	5 ～ 8	平和祈念式典会場周辺図……………	19

長 崎 市  
City of Nagasaki

# 長崎平和宣言

目を閉じて聴いてください。

幾千の人の手足がふきとび  
腸わたが流れ出て  
人の体にうじ虫がわいた  
息ある者は肉親をさがしもとめて  
死がいを見つけ そして焼いた  
人間を焼く煙が立ちのぼり  
罪なき人の血が流れて浦上川を赤くそめた

ケロイドだけを残してやっと戦争が終わった

だけど……  
父も母も もういない  
兄も妹ももどってはこない

人は忘れやすく弱いものだから  
あやまちをくり返す  
だけど……  
このことだけは忘れてはならない  
このことだけはくり返してはならない  
どんなことがあっても……

これは、1945年8月9日午前11時2分、17歳の時に原子爆弾により家族を失い、自らも大けがを負った女性がつづった詩です。自分だけではなく、世界の誰にも、二度とこの経験をさせてはならない、という強い思いが、そこにはあります。

原爆は「人の手」によってつくられ、「人の上」に落とされました。だからこそ「人の意志」によって、無くすことができます。そして、その意志が生まれる場所は、間違いなく、私たち一人ひとりの心の中です。

今、核兵器を巡る世界情勢はとても危険な状況です。核兵器は役に立つと平然と公言する風潮が再びはびこり始め、アメリカは小型でより使いやすい核兵器の開発を打ち出しました。ロシアは、新型核兵器の開発と配備を表明しました。そのうえ、冷戦時代の軍拡競争を終わらせた中距離核戦力（INF）全廃条約は否定され、戦略核兵器を削減する条約（新START）の継続も危機に瀕しています。世界から核兵器をなくそうと積み重ねてきた人類の努力の成果が次々と壊され、核兵器が使われる危険性が高まっています。

核兵器がもたらす生き地獄を「くり返してはならない」という被爆者の必死の思いが世界に届くことはないのでしょうか。

そうではありません。国連にも、多くの国の政府や自治体にも、何よりも被爆者をはじめとする市民社会にも、同じ思いを持ち、声を上げている人たちは大勢います。



そして、小さな声の集まりである市民社会の力は、これまでも、世界を動かしてきました。1954年のビキニ環礁での水爆実験を機に世界中に広がった反核運動は、やがて核実験の禁止条約を生み出しました。一昨年の核兵器禁止条約の成立にも市民社会の力が大きな役割を果たしました。私たち一人ひとりの力は、微力ではあっても、決して無力ではないのです。

世界の市民社会の皆さんに呼びかけます。

戦争体験や被爆体験を語り継ぎましょう。戦争が何をもたらしたのかを知ることは、平和をつくる大切な第一歩です。

国を超えて人と人との間に信頼関係をつくり続けましょう。小さな信頼を積み重ねることは、国同士の不信感による戦争を防ぐ力にもなります。

人の痛みがわかることの大切さを子どもたちに伝え続けましょう。それは子どもたちの心に平和の種を植えることになります。

平和のためにできることはたくさんあります。あきらめずに、そして無関心にならずに、地道に「平和の文化」を育て続けましょう。そして、核兵器はいらない、と声を上げましょう。それは、小さな私たち一人ひとりにできる大きな役割だと思います。

すべての国のリーダーの皆さん。被爆地を訪れ、原子雲の下で何が起こったのかを見て、聴いて、感じてください。そして、核兵器がいかに非人道的な兵器なのか、心に焼き付けてください。

核保有国のリーダーの皆さん。核不拡散条約（NPT）は、来年、成立からちょうど50年を迎えます。核兵器をなくすことを約束し、その義務を負ったこの条約の意味を、すべての核保有国はもう一度思い出すべきです。特にアメリカとロシアには、核超大国の責任として、核兵器を大幅に削減する具体的道筋を、世界に示すことを求めます。

日本政府に訴えます。日本は今、核兵器禁止条約に背を向けています。唯一の戦争被爆国の責任として、一刻も早く核兵器禁止条約に署名、批准してください。そのためにも朝鮮半島非核化の動きを捉え、「核の傘」ではなく、「非核の傘」となる北東アジア非核兵器地帯の検討を始めてください。そして何よりも「戦争をしない」という決意を込めた日本国憲法の平和の理念の堅持と、それを世界に広げるリーダーシップを発揮することを求めます。

被爆者の平均年齢は既に82歳を超えています。日本政府には、高齢化する被爆者のさらなる援護の充実と、今も被爆者と認定されていない被爆体験者の救済を求めます。

長崎は、核の被害を体験したまちとして、原発事故から8年が経過した今も放射能汚染の影響で苦しんでいる福島の人々を変わらず応援していきます。

原子爆弾で亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、長崎は広島とともに、そして平和を築く力になりたいと思うすべての人たちと力を合わせて、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることをここに宣言します。

2019年（令和元年）8月9日

長崎市長 **田上富久**

## 平和への誓い

1945年8月、アメリカが広島・長崎に原爆を投下し20数万人の命が奪われました。私は当時11歳、爆心地から約2 kmの自宅で被爆しました。

母と4人の弟・妹は佐賀へ疎開していて難を免れましたが、父は爆心地から500mの工場で爆死していました。私たちは兄弟3人で焼け残りの木片を集めて焼け落ちた工場の傍で父の遺体を茶毘に付しました。しかし焼けていく遺体を見るに耐えきれず燃え上がる炎を見ながらその場を離れました。

翌日、遺骨を拾いに行きました。でも遺体は半焼けで完全に焼けていたのは手足の一部だけでした。「せめて頭の骨だけでも拾って帰ろう」と兄が言い、火箸で頭の部分に触れたら頭骸骨は石膏細工を崩すように割れ白濁した半焼けの脳が流れ出したのです。兄は悲鳴を上げ火箸を捨てて逃げ出しました。

私もその後を追って逃げ出したのです。私たちはこんな状態で父の遺体を見捨ててしまいました。原爆で火葬場も破壊されたため、家族や身内を亡くした人々は私たちと同じように無残な体験をしなければならなかったのです。

それだけではありません。辛うじて生き残った人々は熱線による傷や放射能による後遺症に悩まされながら生きていかねばなりませんでした。

私は原爆の被害を受けて20数年後、急性肝炎、腎炎を発症し今なお治療を続けています。更に60数年後には胃ガンに侵され2008年2010年にガンを摘出する手術を受けました。あの時、私と一緒に行動した兄と弟もガンに侵され治療を続けています。

あれから74年、被爆者の私達は多くの方々と「核兵器廃絶」を訴え続けてきました。また、60歳を過ぎて英語を独学で学び、2015年11月長崎で開催されたバグウォッシュ会議では世界の科学者に英語で「核兵器廃絶」に力を貸して下さいと訴えました。しかし、ロシア、アメリカなどの国々に今なお13,880発もの核兵器が保有されていると言われていました。

更にアメリカはロシアとの間に締結している中距離核戦力全廃条約からの離脱を宣言しました。2月にはトランプ政権になってから2回目の「臨界前核実験」を行ったと報じられています。これは「核兵器の廃絶」を願う人々の期待を裏切る行為です。

被爆者は日を追うごとに亡くなっています。私はこの場で安倍総理にお願いしたい。

被爆者が生きている内に世界で唯一の被爆国として、あらゆる核保有国に「核兵器を無くそう」と働き掛けてください。この問題だけはアメリカに追従する事なく核兵器に関する全ての分野で「核兵器廃絶」の毅然とした態度を示して下さい。勿論、私も死ぬまで「核兵器廃絶」を訴え続けます。

それが74年前、広島・長崎の原爆で失われた20数万人の命、後遺症に苦しみながら生き残っている被爆者に報いる道だと思います。

私は第2次世界大戦によって310万人の命を犠牲にした日本が、戦後に確立した「平和憲法」を守り続け、戦争や核兵器もない世界を実現する指導的な役割を果せる国になって欲しいと念願し「平和への誓い」と致します。

Please lend us your strength to eliminate nuclear weapons from the face of the earth and make sure that Nagasaki is the last place on Earth to suffer an atomic bombing. Thank you.

2019年8月9日

被爆者代表 山脇佳朗

## Shinagawa Declaration of a Non-nuclear Peace Area

At the present time, on earth the human race has accumulated a nuclear arsenal quite sufficient to totally destroy itself.  
No weapon has ever been developed which has not at sometime been put to use.  
History bears witness to this terrifying truth.

We must lose no time in ridding the world of nuclear weapons.  
Before the glaring flash fills the sky above our heads.  
If we are too late, we will not even be left with a future to lament our failure.

With the heartfelt plea that nuclear weapons be abolished and permanent peace be established, Shinagawa City declares itself a Non-nuclear Peace Area and makes its appeal to the world.

We refuse to allow the manufacture, placement or introduction of nuclear weapons, by whatever country, for whatever reason.  
To countries holding such weapons, we say, abandon your nuclear armaments immediately!

For the future of this beautiful, irreplaceable earth and for all things living that exist upon it.

26th March 1985

Shinagawa City  
Tokyo



### 2019 品川区平和使節 派遣レポート

発行 令和2年3月

発行者 品川区総務部総務課

〒140-8715 東京都品川区広町2-1-36

電話 03(5742)6625

FAX (03)3774-6356

e-mail : somu@city.shinagawa.tokyo.jp



JR 大井町駅前



JR 西大井駅前



五反田文化センター